

令和元年度 第1回みんなで支える森林づくり長野地域会議

開催日時 令和元年8月7日(水) 午前9時～午後4時

開催場所 千曲市立戸倉上山田中学校会議室、坂城町及び千曲市の事業実施箇所

出席委員 相野 律子委員

伊藤 安芸委員

関野 文夫委員(代理:寺澤 泰昭氏)

事務局 林長野地域振興局長(座長)、佐藤林務課長、三善課長補佐兼林務係長、

関川課長補佐兼林産係長、山口課長補佐兼普及係長、清水

1 現地視察

(1) 松くい被害木利活用事業実施箇所(坂城町網掛)

(2) 木材産業成長参加促進対策事業実施箇所(千曲市 山崎屋木工製作所)

2 会議

(1) 平成30年度長野県森林づくり県民税活用事業実績について

(2) 平成30年度森林づくり推進支援金の実績について

(3) 令和元年度長野県森林づくり県民税の内容及び計画について

(4) 意見交換

(5) その他

<議事に対する意見等>

(1) 平成30年度長野県森林づくり県民税活用事業実績について

(相野委員)

「みんなで支える里山整備事業【県民協働】」の達成率が12%である。次年度は予定どおり達成できるか。

(事務局)

森林づくり条例の里山整備利用地域設定に基づく事業のため、遅れが生じているが、本年度、実施にむけた条件整備を進めており、遅れを取り戻すために取り組んでいるところ。

(相野委員)

里山整備利用地域の認定を受けるためのハードルが高いのか。

(事務局)

認定面積の要件がこれまで「50ha」であったが、「概ね5ha」に下げられた。

事業の認知度があまり高くないので、掘り起しを行っているところである。

令和元年度になって管内の2地域を認定したところ。

<意見交換>

(伊藤委員)

公共の建物建築の際、首長の意向がある場合を除いては木質化が難しいと聞いた。行政が木質化に率先して取り組むことで、民間がついてくることもあるのではないか。

(事務局)

これまで、木質化の推進について行政組織内部に周知する取り組みはしていない。県民会議に意見を伝える。

(寺澤委員)

建物の木質化を推進する補助金の内容で、林務課だけでなく、環境や建設など多分野で活用できるよう充実させてほしい。

(事務局)

行政内でも建物木質化の計画があるが、実施での浸透が難しい。

市町村担当者向け研修等、検討する余地があると思う。

(伊藤委員)

木のある地域で木が使えないというのは寂しい。

(事務局)

木質内装は耐火性に問題があり、設計士から厳しい意見がある。

建築基準法等の耐火基準をクリアするためにはコストがかかり、導入の妨げになっているが、内装木質化の工夫はあるようだ。

(相野委員)

県内に木材を難燃化加工できる場所はあるか。

(事務局)

長和町にあるが、距離があるため、経費的に不利になる。

(相野委員)

県産材認証を取るのに手間がかかる。補助金が充てられていることは承知しているが、手続きが大変だと、面倒で使用をためらうのではないか。もっと簡便にする手段はないものか。

(事務局)

県産材認証そのものは簡便になっているが、少量の場合は難しい可能性もある。

(相野委員)

建築に県産の広葉樹を使用したいと思っても、スギやヒノキ、カラマツ等しかなく、使用を断念した。もっと樹種が多くなるとよい。

せっかく長野県には沢山の木があるのだから、もっとバリエーションが欲しい。

(事務局)

林業から広葉樹が置き去りにされている状況は確かにある。

広葉樹は薪になっている現状があり、今後検討していきたい。

公共施設の木質化、広葉樹活用について県民会議に伝えていく。

(寺澤委員)

広葉樹の手入れは難しく、原木林も少なくなってきた。

(相野委員)

松くい虫対策の伐倒燻蒸処理に抵抗がある。

森に入ったときにビニールがかかった燻蒸処理は見た目がよくない。

搬出して処理するところを見たことがある。この取り組みを進められないか。

(事務局)

薬剤処理は、一定期間が過ぎればビニールが不要になるため、生分解性のビニールを使用するところもある。坂城町の取り組みがその例